

第 28 回「新しい資本主義実現会議」コメント

I. 資産運用立国：新 NISA にアクティブ運用型も推すべき

◎新 NISA の改正により、「貯蓄から投資へ」の潮流が生じていることを高く評価する。一方、そのほとんどがインデックス型投資へ流入しているということは、個別企業の価値創造を促す主体性が乏しい株主が増えていることになり、日本政府の「コーポレートガバナンス改革」の方針に反する。

◎資産運用立国の要である「コーポレートガバナンス改革」への国民意識を高める意味でも、特に長期的な投資視点である「つみたて NISA」を通じた、企業との対話型のアクティブ投資の役割が重要であると確信している。

II. 「成長と分配の好循環」のグローバル展開

◎新しい資本主義のグランドデザインで、「インパクト投資をはじめとする民間資金が自動的に流入するエコシステムを形作り、日本企業にも新たな投資機会を創出するための「触媒」としての ODA を活用すべく、制度の見直しを進める」ことを政策方針として明記していただいたことに強く賛同する。

◎対外経済連携の促進における「オファー型協力」は、ODAのワイズ・スペンディングであり、日本の官民連携で世界との Co-Creation を促す国内外の未来世代への先行投資につながる、日本の開発協力の方針で大きな政策展開である。

第 28 回「新しい資本主義実現会議」コメント

◎新しい資本主義から生じて、金融庁の下で設置された「インパクト・コンソーシアム」や新しい民間資金を動員するためにインパクト投資を推進する国際連携の枠組みである「Triple I for Global Health」が G7 広島サミットで承認され、国連総会サイドイベントでローンチされたことで、世界における日本のプレゼンスが高まっていると実感している。

◎岸田総理が文藝春秋 2022 年 2 月号で寄稿された『私が目指す「新しい資本主義」』における

「市場の失敗がもたらす外部不経済の是正する仕組みを、成長戦略と分配戦略の両面から、資本主義の中に埋め込み、資本主義がもたらす便益を最大化すべく新しい資本主義を提唱していきます。」

「私は、世界的課題となっている分断や格差を乗り越える資本主義をわが国で実現したいと考えています。かつての福祉国家、新自由主義といった資本主義に対する深化の動きは、いずれも欧米発の動きでしたが、今回の深化については、わが国が世界をリードしたい、そして、できると考えています。」

という宣言の実現が着々と進んでいて、モメンタムを加速すべき。